

前頁 2 図は、中学部 2 年、K 君の体格の変化を示した物である。多少のずれや遅れが見られるものの、この時期、障害のある子にも第二性徴がみられる。また、からだも飛躍的に育つ。

全力を出し切る機会を与え、育つエネルギーに応じた運動を課し、内蔵を含めた身体の諸機能をしっかり育てていく必要がある。丈夫でたくましいからだづくり開始の重要な時期である。

(2) からだを使うことを要求し、覚える時期

飛躍的にからだが育つ時期、からだは自然に運動を要求する。それを満たす場を教師や親は保障する必要がある。運動要求が満たされていないからだは、筋肉感覚の鈍化、大脳活動の低下、活動を嫌う子どもを育ててしまう。この事は、エネルギーを内攻させた不安定な精神状態や不快な心理状況を作るばかりではなく、肥満傾向を招き、運動嫌い、活動嫌いを作るといった悪循環を招く。

(3) 今迄出来なかった事が出来だし、自信ややる気が持てる時期

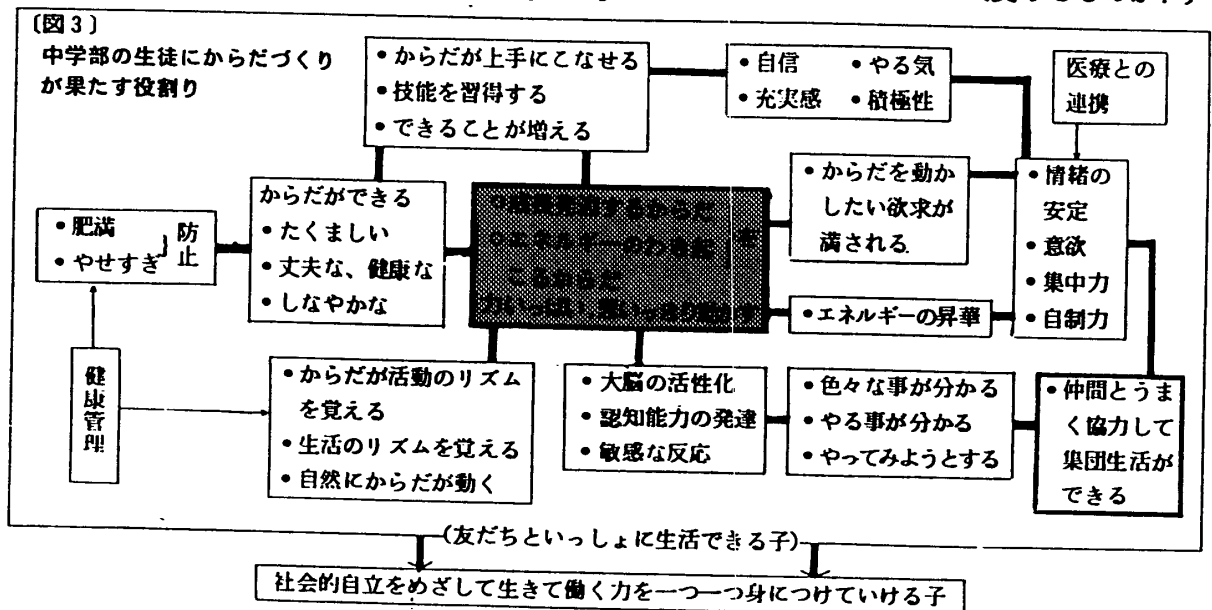
からだが大きくなり、大人顔負けの力がつき、年令効果も手伝って、今迄使えなかった大人の道具が使えだしたり、身のこなしが上手に出来だしたりする。そのことは、自分にも何かに役立つ活動が出来た事を自覚させ、喜ばせ、自信が持てだし、情緒が安定し、生活意欲の高まりへと結びついていく。

(4) 困りの人の健康管理に少しは協力し、がんばろうとする力が育つ

以上の 4 点に集約されるからだの中学生に対し我々は、「楽しんで、力いっぱい、思いっきり、しっかりとからだを動かす」機会や場を保障していくことが大切であり、そのことによって、表現の基礎になる力の弱さを少しでも改善できるからだが出来、社会的自立をめざした力が少しずつだが効果的に獲得できると考えた。



【負けるものか！】



(3) 63年度（一年次）の取り組みの概要

中学部の生徒のからだづくりへの取り組みは今に始まった事ではない。山里主事在任中の S 58 年

から「朝の活動・体力づくり」と帯時間が設定され、継続的に取り組まれてきた。昨年度はそれを引き継いだ形を中心に、下の図4に示す構想で取り組んできた。

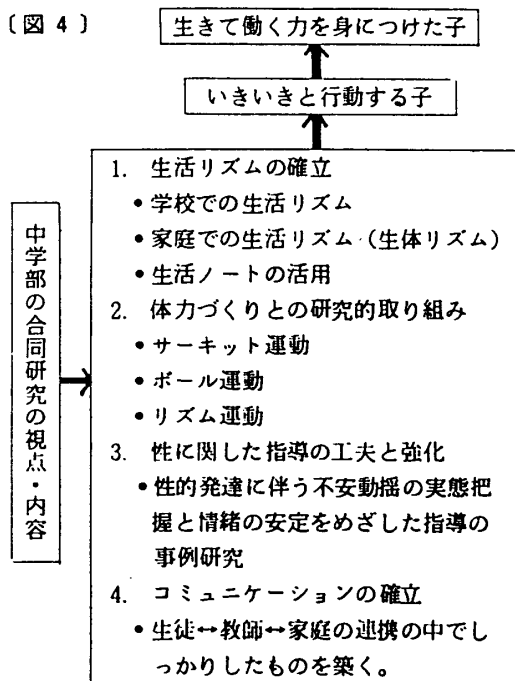


図4 (63年度の取り組み)

以上のように4つの柱を中心として、生徒の健康と生活について共同で研究を続けてきた。どれをとっても少しずつ成果はみられたものの、色々な課題を残して本年度に引き継ぐ形となった。

(4) 本年度(二年次)の取り組み

昨年度の取り組みには、生活リズムの確立による情緒の安定、食事指導による適切な体格づくり、体力づくりによる運動機能や持久力の向上等、少しずつ成果が見られ、今年度もこの取り組みは続けていく事にした。しかし一方、この育ちつつあるからだを没頭できる楽しい生活に、思い切り生かし使う中でのからだづくりにも目を向けていく必要を感じ、**遊び的労働を重視した生活単元学習**に研究の場を広げる事にした。この事は単に、からだづくりを生活単元学習の場に広げて**具体活動による実践的なからだづくり**をめざしただけでなく、取り組み意欲、目的へ向けて思い続ける心、やり遂げた充実感や自信からくる生活意欲の向上といった、**心理的・態度的な面を含めたからだづくり**を強調しようとしたものである。

(1) 本年度の取り組みの基本姿勢

- ① 昨年度の取り組みを継続し、改善しながら積み上げていく。
- ② **遊び的労働**(物作り、からだを使う)を重視した生活単元学習にからだづくりの場を広げ、からだを生かし使う立場からのからだづくり(心理面・態度面を含む)を追究していく。
- ③ 家庭との連携を大切に、家庭と一体となった生活づくりを心がける。

生活リズムの確立…………一日の生活に軌道を敷いて、反復しながら諸機能の定着を図る。生活を体で覚えさせるため、毎日の学習を帯時間でとり、繰り返しによる定着を図った。また、家庭では学校と共通の課題を持つと同時に、睡眠、食事時間といったからだのリズム作りへ目を向けていった。

体力づくり…………従来のかけ足運動中心の指導からサーキット、リズム、ボールといった三つの運動にかえて取り組んだ。

性に関する指導…………各学期に3～4回の特設時間を設けて指導を行うと同時に毎日の生活の中でも個別指導を徹底するようにした。

コミュニケーションの確立…………生徒と教師、親と子、親と教師がもっと胸襟を開いて話し合う。また、個に応じたコミュニケーションの開発に努めた。